

Support

新潟市教育委員会
学校支援課だより

<http://www.city.niigata.jp/info/gakusi/>

No. 4

平成21年7月17日

編集・発行

学校支援課 広報担当

新学習指導要領の趣旨の実現に向けて 教育課程研究員の取組がスタートしました！

小学校音楽部会



平成20年3月に告示された新学習指導要領の周知・徹底に向け、各区から推薦された教育課程研究員の2年次の研究活動がスタートしました。

新学習指導要領は、小学校では平成23年度、中学校では平成24年度から全面実施となります。それに先立ち今年度からは移行措置が開始されています。

新潟市教育委員会では、平成20年度から平成23年度までの4年間、**新学習指導要領の周知・徹底**に向けた取組を推進します。

平成20年度は、1年次として、各区において伝達講習会を開催しました。教育課程研究員は、リーダーシップを発揮し、市内すべての学校に各教科等の改訂の趣旨内容を説明しました。



生活科部会

2年次となる平成21年度は、教育課程研究員の実践やプラン作成を通して、さらなる周知・徹底を図っていきます。

教育課程研究員は、以下の日程で「各教科等の指導のポイント～新教育課程編成・実施に向けて～」の作成に取り組んでいます。(教科等部会で研修会を開催しています。)

- | | | |
|------------|----------|---------------|
| ○第1回研究員研修会 | 6/12～7/1 | ・年間の活動計画の確認 等 |
| ○第2回研究員研修会 | 7月～10月 | ・実践・プラン作成 等 |
| ○第3回研究員研修会 | 11月～12月 | ・最終検討 等 |

各教科等の指導のポイント～新教育課程編成・実施に向けて～

新学習指導要領各教科等の改訂の趣旨・内容を、具体的な実践を通してポイントを分かりやすくまとめようと考えています。小・中学校別、教科別に数多くの実践事例やプランを掲載し、3月には各学校にお届けする予定です。



新潟市の
進める

体験活動推進事業について



「子ども農山漁村交流プロジェクト」(文科省・農林水産省・総務省の連携事業)は、力強い子どもの成長を支える教育活動として、全国的な活動の展開を目指しています。

A3 学ぶ意欲や自立心が育まれます。

農林漁家に滞在し、豊かな自然の中で体験をすることで子どもの好奇心や、学ぶ意欲が育まれます。また、親元を離れ、家事や食事の手伝いをし、農林漁業体験を行うことで、子どもはたくましく成長します。



Q この事業には
どんな教育効果
があるのですか？

A4 食の大切さを学べます。

生産や収穫活動を体験することで、食べ物の大切さを再認識できます。また、森林、水、食料、環境などを支える農山漁村の営みと日常生活とのつながりから命の根源を知ることができます。

A1 思いやりの心や豊かな人間性・社会性などが育まれます。

仲間との長期宿泊体験や農林漁業体験等を通して、互いの新たな面を知ることができます。また、共同生活・作業により、思いやりの心や豊かな人間性・社会性が育まれます。

A2 社会規範や生活技術などが身に付きます。

農林漁家での民泊や地域住民との交流活動など、幅広い世代とのふれあいが、子どもたちのコミュニケーション能力を高めます。同時に、社会規範や生活技術を身に付けることに役立ちます。

こんな取組も進んでいます。

自然体験推進事業(新潟市教育ビジョンによる)

- 一泊二日以上の野外活動(テント泊、野外炊飯、キャンプファイヤー等)を支援
- 県少年自然の家、五頭連峰少年自然の家等
- 参加校：一〇四校
- 一学級あたり九万円を上限として補助

子ども農業体験交流事業(食と花の推進課と共に)

- 農林漁業体験(搾乳、紙すき、田植え等)
- 農林漁家の方との交流
- 福島潟菱風荘、県立青少年研修センター等
- 参加校：十一校(栄、新潟、南、岡方第一、中之口東・西、小針、和納、阿賀、笠木、小瀬)
- 宿泊代、講師謝礼等を補助



今年度の推進校(調査研究校)

対象	小学校5, 6年生
概要	自然の中での長期宿泊体験 民泊、農林漁家の方との交流、 海釣り、間伐、自然観察 等
方面等	佐渡市 白馬(長野県飯山市)
参加校	東中野山小学校, 入舟小学校, 坂井東小学校, 亀田小学校, 山の下小学校 以上5校
補助等	1人当たり約5,500円を補助 (1校あたり40~70万円の補助)





巻西中学校

兵藤指導主事
の学校訪問日記

巻西中学校・社会科の実践

社会科担当の藤由豊城教諭の授業を参観しました。

単元名を「世界の構成」とし、地理的分野・内容(1)「世界と日本の地域構成」・ア「世界の構成」・(イ)「国々の構成と地域区分」にかかわる実践でした。本実践から学ぶべきことは次の2点です。

① 中央教育審議会答申や学習指導要領を踏まえた授業づくり

学習指導要領を踏まえることで、ねらいや目標、学習内容を明確にし、その上で今回の改訂のポイントである、「習得・活用」といった学習活動の類型や、「言語活動の充実」を意識した授業を展開され、思考力・判断力・表現力等をはぐくもうとしていました。

② レディネス調査を基にした授業づくり

生徒が何を「習得」しているかを把握し、その「習得」した知識・技能を、どのように「活用」し、どんな力（思考力・判断力・表現力等）を育成するのかを明確にし、手だて（学習活動等）を考えていくことが大切です。その意味でレディネス調査は有効です。

本時では、習得した基礎的・基本的な知識・技能（経線、緯線、6大陸、3大洋、主な国々の位置など）を活用し、地図を活用して事象を説明したり、自分の解釈を加えて、世界地図を描くためのポイントについて意見交換したりする学習活動（活用・言語活動）を行いました。それらの活動を通して、世界地図を描くためのポイントについて考察する力や、ポイントを基に世界地図として表現する（描く）力などの「思考力・判断力・表現力等」を育てていこうとしていました。



巻西中学校の研修の取組

巻西中学校では、「学習五原則」「声のものさし」「スムーズな話し合いを進めるために」などの学習規律確立のための指導を全校体制で取り組みながら、新学習指導要領の完全実施に向けて、下記の内容を意識した研修を進めていました。

新学習指導要領のポイント

新学習指導要領（平成20年3月告示）のポイントを端的に示すことばの一つに「バランス」があります。それは、「基礎的・基本的な知識・技能の習得」と「思考力・判断力・表現力等の育成」の「バランス」です。それらの「バランス」を重視し、「確かな学力」を基盤に据えた「生きる力」を育成するために、中央教育審議会答申（平成20年1月）において、「習得・活用・探究」という学習活動の類型が具体的な手だてとして示されました。あわせてそれらの基盤である「言語活動の充実」が示されました。

「習得・活用・探究」とは？

- 「習得・活用・探究」とは、基礎的・基本的な知識・技能及び思考力・判断力・表現力等を子どもに身に付けさせるための学習活動の類型を示したものです。
- これまで行ってきた学習活動とまったく異なるものではありません。
- 大切なのは、これまでの学習活動を、「習得・活用・探究」として再構成し、意図的・計画的に単元の中に位置付けていく（単元構成していく）ことです。



小瀬小学校「とびだせ 小瀬っ子」プランの実践

小瀬小学校では、子どもたちに自信と積極性を育てる「とびだせ 小瀬っ子」プランを進めています。「総合的な学習」「クラブ活動」「全校活動」の3つの教育活動で、学習成果の発信を工夫したり学校外の外部団体と連携したりしながら、子どもたちの活動の場を広げ、校外でも自信をもって積極的に活動することを促しています。

6月3日、5年生は鎧郷小学校、曾根小学校の5年生と共に「第1回西川流域子ども環境サミット」に参加しました。3校を代表し、小瀬小学校の子どもたちは、4年生の総合学習「西川の旅を通して学んだこと」のまとめを発表しました。これをもちに、西川をもっといい川にするために、自分たちにできることを話し合いました。多人数で発表し合うという機会はたいへん貴重であり、引込みがちな小瀬っ子の中にもかなりの度胸を付けた子がいた、ということです。



6月10日には、6年生が、新潟駅東連絡通路で小瀬の特産品そら豆と米粉を通行人に配りました。「地元JAの協力を得て、学校紹介や料理の手作りレシピを入れたパンフレットも一緒に配り、小瀬のアピールができたこと、たくさんの方から喜んでもらったことなど満足感あふれる活動となりました。」と、校長先生は語っておられました。

このプランでは、他に、JA新潟みらい、新潟大学国際交流センター、長岡高専などと連携した「小瀬っ子MYクラブ」の活動、縦割り集団を生かした「全校ダンス」「音楽発表」の活動などを通して、子どもの世界が広がっていくことを願って実践されています。

全教職員で一丸となって進めている「とびだせ小瀬っ子」プランが、「自分の力に自信をもち、積極的に発信するたくましい小瀬っ子魂を育む」ことをねらった実践として、一層充実することを期待しています。

(文責 西区担当指導主事 本間文雄)

区担当のページ

酒屋小学校「学び合い、豊かに表現する子ども」を目指して

酒屋小学校では、知・徳・体の調和のとれた、きめ細かな指導に努めています。その取組の成果は、各種検査や調査の結果から、うかがうことができます。

たとえば、NRTの結果は、どの学年も全国の平均を上回っており、高学年でも高い数値を示しています。また、いじめ・不登校についても、ここ数年ゼロが続いていますし、昨年度の体力テストでも、全国の平均を上回る項目数が市の平均を上回るなど、成果をあげています。

一方、課題も明らかになってきました。基礎的な学力が身に付いている反面、思考力や表現力に弱さが見られるとともに、漢字や計算テストでよい成績を取っている子どもの中に、国語や算数が嫌いだという子が少なからずいるということです。



訪問した当日、1年担任丸山教諭の算数「ひきざん」の授業を参観しました。そこでは、既習の「いくつといくつ」の経験を生かせるように、先生方が作った水槽と地域の方から作ってもらった金魚を使って、課題を提示していました。また、考えを友達に説明したあとで、分かってもらえたら自分のノートにサインをしてもらおうなど、友達とかわり合って表現する場も設定されていました。このように、算数を楽しく学び合い、さらに思考力や表現力を高めようとする配慮が見られました。

来年度、酒屋小学校は割野小学校と一緒に、「両川小学校」として生まれ変わります。そのため、両校では「酒屋でなければできない教育」、「割野だからできる教育」を合い言葉に、今年度の取組を行っています。さらに、両川中学校とも連携し、新しい学校の教育目標を検討したり、総合的な学習の時間の内容を話し合ったりして、来年度に向けた準備も進めています。新校舎は両川中学校の近くにできることから、より一層の小・中連携した学校運営が期待されます。

(文責 江南区担当指導主事 佐藤重勝)